

第 71 回日本救急医学会関東地方会幹事会

2021 年 3 月 20 日（土）12：00～12：30

会場：Web 会議

報告事項

1. 令和 2（2020）年度 事業報告

①庶務報告（報告資料①）

②各部会・委員会報告

SOS-KANTO 委員会・多施設研究検討委員会（報告資料②）

看護部会（資料報告③）

救急隊員部会・関東地方 MC 検討委員会（報告資料④）

関東地方災害医療検討委員会（報告資料⑤）

編集委員会（報告資料⑥）

ホームページ（報告資料⑦）

③ 第 70 回日本救急医学会関東地方会報告（報告資料⑧）

④ 第 71 回日本救急医学会関東地方会準備状況報告（報告資料⑩）

審議事項

1. 新幹事推薦（審議資料①）

2. 令和 2（2020）年度 収支決算承認について（審議資料②）

3. 令和 3（2021）年度 予算案承認について（審議資料③）

4. 次々期（第 73 回）学術集会会長の選任について

5. 名誉会員推戴について（審議資料④）

6. 事務局の移転について（審議資料⑤）

7. SMAQ（日本救急医学会 学生・研修医部会）について（審議資料⑥）

以上

2020年度 庶務報告

(2020年12月31日現在)

総会員数：	1135名	(新会員 93名)
幹事	330名	(新幹事*1 13名)
名誉	44名	(新名誉会員 0名)
一般(医師)	549名	(新会員 56名)
一般(看護師)	164名	(新会員 21名)
一般(救急救命士)	32名	(新会員 14名)
一般(その他・不明)	15名	(新会員 2名)

*12020年1月幹事会承認

退会者数： 128名 (うち104名は会費滞納による自然退会)

名誉	0名
幹事	6名
一般(医師)	76名
一般(看護師)	38名
一般(救急救命士)	2名
一般(その他)	7名

会員のご逝去 1名 (退会者数に含む)

大槻 穰治 先生 (おおつき じょうじ) (幹事 2020年6月)

SOS-KANTO 委員会報告

令和3年2月11日

SOS-KANTO 担当常任幹事 中田 孝明

1. 会議開催報告

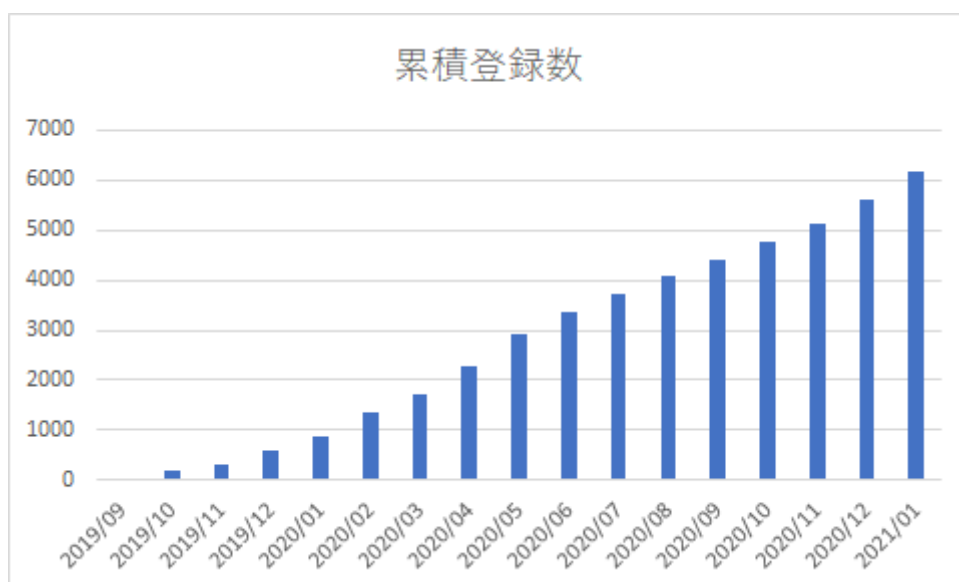
- ① 運営委員会 (SOS-KANTO2017) 開催なし
- ② 全体会議 (SOS-KANTO2017)

2020年1月18日(土) 16:35～(第7会場(商工会議所 2階 サクラ))

2. SOS-KANTO 2017 について

参加施設数：46件*、採用PICO数：64件、症例登録数6467例(令和3年1月末現在)

※参加46施設中、症例未登録施設14施設



参考：SOS-KANTO2002 2002年9月～2003年12月末(16ヶ月) 58施設 9592症例
SOS KANTO2012 2012年1月～2014年3月(15ヶ月) 68施設 16452症例

- ・参加46施設中、症例未登録施設14施設あり。各施設別に、追加症例の入力をお願い等をすすめていく予定。
- ・また、参加施設にパンデミック以前のCPRとどのような変化があったのかアンケートを実施予定。

以上

看護部会報告

令和3年2月16日
看護部会担当常任幹事
佐藤 憲明

1. 2020 年会議開催報告

①看護部会運営委員会 2回開催

第1回看護部会運営委員会：1月18日（土）前橋商工会議所

第2回看護部会運営委員会：9月5日（土）Web会議

②看護部会施設代表者会 1回開催

1月18日（土）前橋商工会議所

2. 看護部会シンポジウムについて

実施せず

以上

救急隊員部会・関東地方 MC 検討委員会 報告

令和3年2月16日

救急隊員部会担当常任幹事 畝本 恭子

1. 会議開催報告

- ・第6回関東地方メディカルコントロール協議会連絡会

2020年1月18日（土）ベイシア文化ホール

テーマ：脳卒中循環器病対策基本法の制定を踏まえた病院前脳卒中救護の現状と展望

また、第71回日本救急医学会関東地方会にて予定していたセッション案を別添する。

以上

新型コロナウイルス感染症への対応

これまでの当庁として対応の結果（統計的なもの）、現在の対応要領等についての報告をメインとする。（感染防止についての取り組みに重きを置く。）

●都内感染者数と当庁対応件数等の推移（グラフ）

●陽性患者の扱い件数、疑い症例の扱い件数【後日陽性覚知件数】

	救急搬送	保健所に引継ぎ	その他（不搬送等）
コロナ陽性患者			
コロナ疑い傷病者	【 】		

※ラッサ運用 件

●新型コロナウイルス感染症の方から救急要請があったときの流れ（図式で解説）

●救急隊の現場活動時間の推移

●救急隊の行動要領（令和2年 月時点）

陽性確定患者、疑い症例、それ以外の場合の感染防止策や病院選定

●感染症対策資器材

オゾンガス生成装置について

特殊救急車（陰圧型）について

▲活動隊の支援体制（救急副本部の運営、業者消毒、技術支援）

救急副本部の任務等

震災・水災・武力警戒態勢等、大規模・特異災害発生時等に運用される。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、保健所との調整や医療機関選定、技術支援等の調整。

技術支援班

主に搬送先医療機関との調整業務や救急隊の感染防止のための支援活動（安全な脱衣。確実な消毒の実施）

業者消毒

ペストコントロール協会に車両消毒を依頼。（高濃度オゾン発生装置による車両消毒を所属で実施）

（特異事案として報告を義務付け）

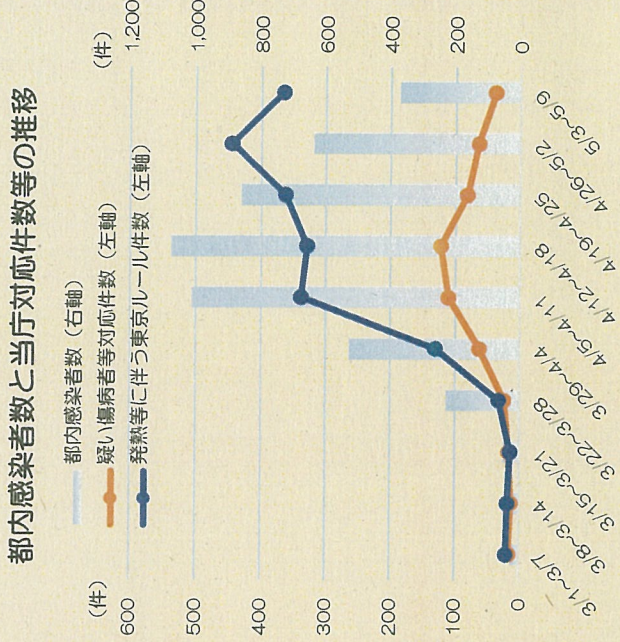
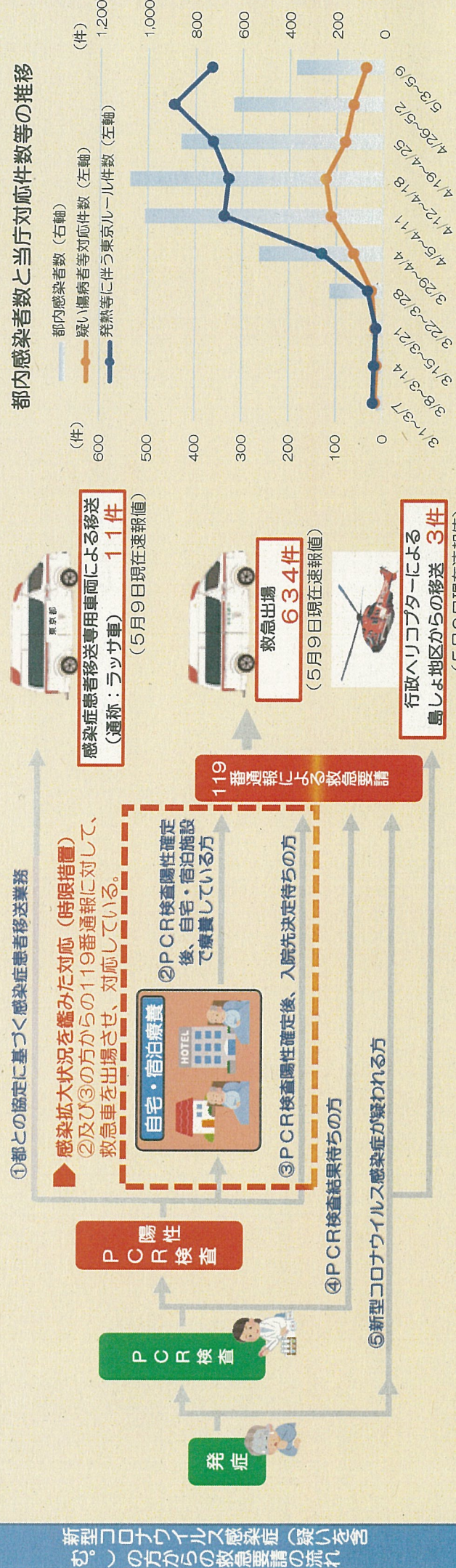
陽性患者の扱い、疑い症例の扱い、後日コロナ陽性と判明した事案全てにおいて、救急部に特異事案報告を義務付け。活動時の感染防止策や消毒状況を確認し、感染危険の有無を早期に把握。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う救急活動の現状等について

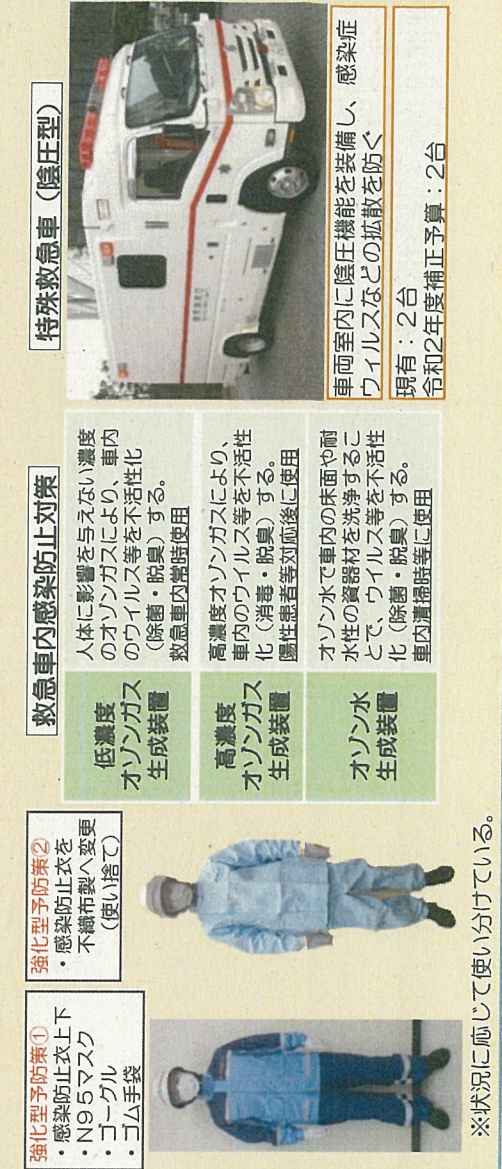
令和2年5月12日
東京都消防庁

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、救急隊が感染疑い傷病者を扱うケースが増加し、発熱等に伴う東京ルール（病院選定に5か所以上又は20分以上の連絡を要する場合に、地域救急医療センターを中心に受け入れ先医療機関を選定する仕組み）該当件数も増加しているが、庁をあげて、消防力の維持と活動態勢の万全を期し、都民サービスの下を招かないよう全力で取り組んでいく。

当庁では、感染症法上の移送業務にあたる下記①及び④、⑤の対応を行っていたが、感染拡大状況を鑑み、②、③についても臨時的かつ時限的に救急業務として運用している。



3月末から、発熱等に伴う現場活動時間の平均現場活動時間は延申していたが、4月中旬以降は、緩やかな短縮傾向にある。



3 感染症対策資器材

強化型予防策①

- ・感染防止衣上下
- ・N95マスク
- ・ゴーグル
- ・ゴム手袋

強化型予防策②

- ・感染防止衣を不織布製に変更（使い捨て）

※状況に応じて使い分けられている。

低濃度オゾンガス生成装置

人体に影響を与えない濃度のオゾンガスにより、車内のウイルス等を不活性化（除菌・脱臭）する。救急車内常時使用

高濃度オゾンガス生成装置

高濃度オゾンガスにより、車内のウイルス等を不活性化（消毒・脱臭）する。陽性患者等対応後に使用

オゾン水生成装置

オゾン水で車内の床面や耐水性の資器材を洗浄することで、ウイルス等を不活性化（除菌・脱臭）する。車内清掃時に使用

特殊救急車（陰圧型）

車両室内に陰圧機能を装備し、感染症ウイルスなどの拡散を防ぐ

現有：2台
令和2年度補正予算：2台

心肺蘇生を望まない傷病者の対応について

●背景

人生の最終段階にある傷病者の中には、事前に家族等や医療・ケアチームと話し合い（ACP：愛称「人生会議」）、自分が心肺停止となった時に「心肺蘇生を実施しない意思」をもつ方がいます。

心肺停止時には、家族等関係者がかかりつけ医等に連絡して、ご自宅でお看取りをすることが話し合われていれば、本来ならば救急隊が介入することはありません。

実際には、慌ててしまった家族等関係者が救急要請する場合があります。

本運用が始まるまでは、救急隊は心肺蘇生を実施して医療機関に搬送するしかありませんでした。

このような状況を踏まえ、可能な限り傷病者の意思を尊重できるように体制を整理し、本対応要領が運用開始されました。（別図）

●運用の対象となる要件

- 1 ACP実践下の成年で心肺停止状態にあること
- 2 傷病者が人生の最終段階にあること
- 3 傷病者本人に「心肺蘇生の実施を望まない意思」があること
- 4 傷病者本人の意思決定に際し想定された症状と現症が合致していること

●これまでの当庁として対応の結果

件数

想定事案	現場で引継ぎ		救急搬送
	医師に引継ぎ	家族に引継ぎ	
	67	20	13
類似事案	2		

●心肺蘇生を望まない傷病者の対応要領

心肺停止の確認

意思確認の方法

かかりつけ医等への確認項目

かかりつけ医等又は家族等への引継ぎ

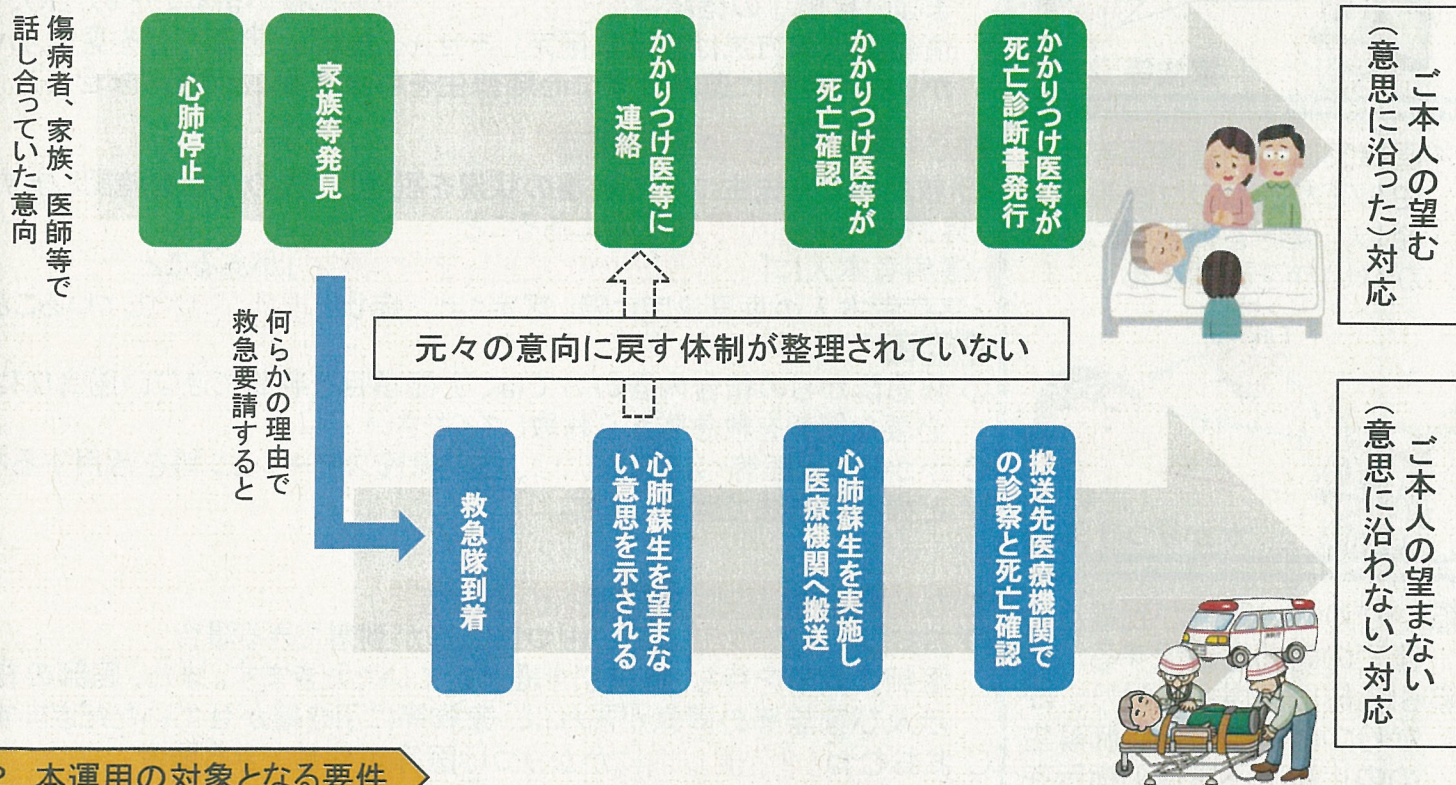
●救急隊の現場活動時間の推移

●まとめ

心肺蘇生を望まない傷病者への対応について

1 背景

- 人生の最終段階にある傷病者の中には、事前に家族等や医療・ケアチームと話し合い（ACP：愛称「人生会議」）、自分が心肺停止となった時に「心肺蘇生を実施しない意思」を持つ方がいます。
- 心肺停止時には、家族等関係者がかかりつけ医等に連絡して、御自宅等でお看取りをすることが話し合われていれば、本来ならば救急隊が介入することはありません。
- 実際には、慌ててしまった家族等関係者が救急要請する場合があります。
- 現行の制度では、救急隊は心肺蘇生を実施して医療機関に搬送することになります。
- こうした現状を踏まえて、可能な限り傷病者の意思を尊重できるように体制を整理しました。



2 本運用の対象となる要件

1 ACP実践下の成年で心肺停止状態にあること

解説

ACPが行われていない場合は含まれません。未成年や心肺停止前の傷病者は含まれません。

2 傷病者が人生の最終段階にあること

解説

回復不可能な疾病の末期、例えば悪性腫瘍の末期にある傷病者が対象となります。

3 傷病者本人に「心肺蘇生の実施を望まない意思」があること

解説

家族等の意思ではなく、あくまでACPIに基づく傷病者本人の意思があった場合が対象となります。

4 傷病者本人の意思決定に際し想定された症状と現症が合致していること

解説

外因性（不慮の事故や窒息等）が疑われる心肺停止は、対象とはなりません。

- 救急隊から「かかりつけ医等」に連絡して、これらの項目を確認させていただき、心肺蘇生を中断し、「かかりつけ医等」又は「家族等」に傷病者を引き継ぐこととしました。
- 救急隊は、かかりつけ医等が上記項目を判断するために必要な情報を伝達します。

3 運用の細部

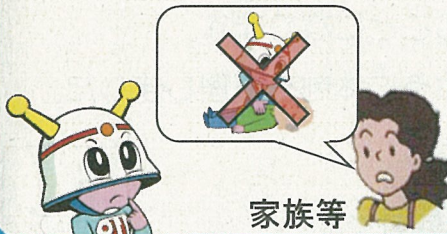
- ①心肺停止の確認
- ②心肺蘇生の実施と情報聴取

救急隊



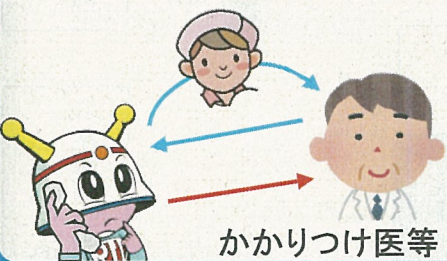
傷病者

- ③傷病者本人に「心肺蘇生の実施を望まない意思」があることを示される



家族等

- ④直接又は訪問看護師等を経由してかかりつけ医等に連絡し、傷病者の意思に誤りがないかを確認する



かかりつけ医等

- ⑤かかりつけ医等が到着するまでの時間を確認する
- ⑥引き継げる場合に限り、かかりつけ医等から心肺蘇生の中止及び不搬送の指示を受けて心肺蘇生を中止する



心肺停止の確認

○ 心肺停止を確認した場合には、速やかに心肺蘇生を開始します。

解説

○ 救急隊の使命である救命に主眼をおいた活動を行うためです。

補足

○ 明らかに死亡している場合には、現行のとおり警察官を要請し、傷病者本人に「心肺蘇生の実施を望まない意思」があることを示された場合には、かかりつけ医等に連絡します。

意思確認の方法

○ 書面に限らず口頭の情報提供も対象に含みます。また、現場にいない家族等からの電話や、ACPIに参与していない友人、隣人等からの口頭の情報提供も対象に含みます。

解説

○ 伝えられる方法によらず、救急隊が短時間でその内容を適切に評価することが困難であることから、傷病者本人の「心肺蘇生の実施を望まない意思」の確認は必ずかかりつけ医等に行います。そのため、情報提供の方法は書面に限定しません。ただし、書面だけを見て、かかりつけ医等に連絡せずに心肺蘇生を中止することはありません。

かかりつけ医等への確認項目

○ 救急隊から先生に救急現場の状況を説明し、次の項目を確認します。

- ・傷病者が**人生の最終段階**にあること
- ・傷病者本人に「**心肺蘇生の実施を望まない意思**」があること
- ・傷病者本人の意思決定に際し想定された症状と**現症が合致**していること

補足

○ 救急隊からの報告内容のみでは、上記項目を判断できない場合には、必要な情報を救急隊から聴取してください。

○ かかりつけ医等への連絡には、訪問看護ステーション等を活用するなど様々な方法で連絡します。

かかりつけ医等又は家族等への引継ぎ

- おおむね**45分以内**にかかりつけ医等が到着できる場合
医師の到着を待ち、直接引き継がせていただきます。また、医師の指示及び家族等の同意があれば、家族等に引き継がせていただきます。
- おおむね**12時間以内**にかかりつけ医等が到着できる場合
医師の指示及び家族等の同意を得て、家族等に引き継ぎます。

解説

○ 45分という時間は、在宅医の往診料が保険診療として認められる距離から算定しました。

○ 12時間という時間は、厚生労働省の死亡診断書記入マニュアルに記載されている事例から算定しました。

4 留意事項

- 直接又は訪問看護師等を経由してもかかりつけ医等に連絡がつかない場合や、家族等又はかかりつけ医等に傷病者を引き継げない場合等は、心肺蘇生を継続して2次医療機関等に搬送します。
- 心肺蘇生を実施しない、死亡確認や死亡診断のための搬送は、総務省消防庁から「救急業務に該当しないと考えられる」との見解が示されているため、医療機関に搬送することはできません。
- 心肺蘇生の中止は**医師が直接行った指示**に従います。医師以外の医療従事者（看護師、介護老人福祉施設職員等）からの指示や、伝聞による指示には対応できません。
- 傷病者本人に「心肺蘇生の実施を望まない意思」があることを示された事案は、すべて医師検証の対象とします。東京都MC協議会の事後検証委員会等により、適宜**運用要領を見直し**ていきます。

関東地方災害医療検討委員会 報告

令和3年2月16日

関東地方災害医療検討委員会

担当常任幹事 河野 元嗣

1. 会議開催報告

- ・ 関東災害医療連絡会議（川崎事例報告会）
2020年1月18日（土） ベイシア文化ホール

第71回日本救急医学会関東地方会の開催中止に伴い、2021年関東災害医療連絡会議は実施せず。

以上

『日本救急医学会関東地方会雑誌』制作報告

2021年2月16日
編集担当常任幹事 井上貴昭

1) 論文投稿数

全投稿数：59編〔医師部会：49編，看護部会：5編，救急隊員学術研究会：5編〕
(うち11編は2020年学会発表論文以外)

	件数	備考
2020年 学会全発表数	233件 (医師部会：169件，看護部会：21件， 救急隊員学術研究会：39件，学生その他4件)	投稿率：20.6%
辞退・未着	176編	
2020年 発表論文投稿数	48編 (医師部会：42編，看護部会：4編， 救急隊員学術研究会：2編)	

【参考：投稿率の推移について】

	2014年 35巻	2015年 36巻	2016年 37巻	2017年 38巻	2018年 39巻	2019年 40巻	2020年 41巻
学会発表 数	254	251	295	224	270	261	233
辞退・未着	162	176	208	166	224	212	176
投稿数	68	75	87	58	46	49	48
投稿率	26.8%	29.9%	29.5%	25.8%	17.0%	18.8%	20.6%

2) 掲載論文数

	42巻3号 (6月)	42巻4号 (12月)	43巻1号 (3月，予定)	査読継続
掲載 論文数	4	33	8*	14
内訳	医師部会：3 看護部会：1 救急隊員：0	医師部会：29 看護部会：2 救急隊員：2	医師部会：7 看護部会：0 救急隊員：1	医師部会：11 看護部会：2 救急隊員：1

※2020年1月22日時点での採用数

3) 編集スケジュール

3月末	42巻2号刊行予定*
4月中旬	編集委員会開催予定
6月末	42巻3号刊行予定
12月末	42巻4号刊行予定
令和4年1月末	43巻1号(抄録号)刊行予定
令和4年3月末	43巻2号刊行予定

*日本救急医学会関東地方会学術集会中止のため、抄録号が発行されない場合は1号となり、43巻の発行は3号となる予定

以上

日本救急医学会関東地方会ホームページ報告

令和3年2月16日

ホームページ担当常任幹事 井上 貴昭

1. ホームページ更新情報について ※関連学会案内の更新については省略

【2020年1月】

- ・学術集会のお知らせを一部更新しました。(20.1.17)
- ・新着情報, 学術集会, 役員一覧, 幹事名簿を更新しました。(20.1.20)

【2020年2月】

- ・SOS-KANTOを更新しました。(20.2.7)

【2020年3月】

- ・発表演題 論文ご投稿のお願いを掲載しました。(20.3.4)

【2020年4月】

- ・事務局へのお問合せについてを掲載しました(20.4.1)
- ・41巻2号をJ-STAGEで公開開始いたしました。(20.4.2)

【2020年6月】

- ・事務局へのお問合せについてを更新しました。(20.6.24)

【2020年9月】

- ・第44回北海道救急医学会学術集会〔Web開催〕について掲載しました。(20.9.7)

【2020年10月】

- ・学術集会のおしらせを更新しました。(20.10.15)

【2020年11月】

- ・新幹事公募のお知らせを掲示しました。(20.11.13)

以上

第71回日本救急医学会関東地方会 第58回救急隊員学術研究会
開催について

令和3年2月16日

1. 開催について

2021年2月3日(水) 誌上開催(報告書: 報告資料⑧-2 参照)

2. 経緯等

2020年6月30日(火): 臨時常任幹事会(Web会議)

新型コロナウイルス感染拡大の防止の観点から、開催事務局より実会場での開催中止の申し入れがあり、常任幹事会はこれを承認

2020年9月10日(金): 令和2(2020)年度第2回常任幹事会(Web会議)

実会場での開催を中止、Web開催(オンデマンド配信)とし、参加費無料・期間を設けたストリーミング配信での開催とする案が開催事務局から提出され、常任幹事会はこれを承認

2020年1月12日(火)

緊急事態宣言の発令を含めた新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、WEB開催を中止

企画していたシンポジウム等を取りまとめた報告書をもつての誌上開催とする。

3. 会計報告

報告資料⑧-3 参照

以上

第71回日本救急医学会関東地方会学術集会・第58回救急隊員学術研究会について

第71回日本救急医学会関東地方会学術集会
第58回救急隊員学術研究会

会長 山口 芳裕



●はじめに

本学術集会・研究会は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、予定しておりました現地開催ならびに WEB 開催をすべて中止といたしました。会員の皆様には、開催に至らなかったことを心よりお詫び申し上げます。

●現地開催の断念

本学術集会・研究会は、『「反時代的」救急の正論』を主テーマに掲げ、令和3年2月3日を会期に、京王プラザホテル（新宿）を会場として開催すべく準備を進めて参りました。しかしながら、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大の中、国内の最流行地である東京都における現地開催は不適切と判断せざるを得ない状況となりました。

●WEB 開催の中止

現地開催に代わる形として、規模を縮小した WEB 開催に切替えオンデマンド配信による開催の道を模索しました。2つのシンポジウムに厳選して企画を立案し、出演者の密集を避けるため令和3年1月10日、11日の2日間に分けて収録を予定しました。ところが、直前の1月7日に政府より緊急事態宣言が発令され、また予定されたシンポジストはいずれもかかる事態の陣頭指揮にあたる責任ある立場にあることから、収録を断念せざるを得ませんでした。オンライン等でのシンポジウム撮影も検討しましたが、今回の内容は各領域における最も重要なキーパーソンの先生方にお集まり頂き、直接顔を合わせて議論を交わすことに最大の意義を見出していたことから、学術集会という学会のあるべき姿を考え、全面的な中止といたしました。

●企画概要と背景

WEB 開催においては、2つのシンポジウムを企画しました。

シンポジウム1では、看護部門・救急隊員部門合同セッションとして、「患者の思いを紡ぐ～意思決定の時～」をタイトルに、患者の意思決定支援を取り上げました。

日本の高齢化率は年々上昇しており、2065年には38%にまで及ぶと予想されています。対して、健康寿命の伸びは近年留まりを見せ、病床数の不足が避けられない背景から、政策として在宅医療の体制づくりが推し進められています。

厚生労働省の調べによると、国民の過半数が「最期を迎えたい場所」として、「自宅」と答えてお

り、住み慣れた環境で自分らしい生活を最後まで送りたいという希望を多くの人が抱いていることがわかります。しかしその反面、リビング・ウィルや事前指示書について家族と話し合い、急変時の対応について書き記している人は1割程度と報告されており、統計上も施設を含めた在宅死亡は全死亡数の2割弱程度に留まっています。

救急医療の現場では、患者の意思に反して搬送されてしまったケースや、施設等で急変時の対応が明確でない症例が散見されます。事前の意思決定が明確に提示されない症例では、患者やその家族は、生命にかかわるような重大な決断を短時間で行う必要に迫られます。結果として本来望んでいない転帰となった場合は、家族だけでなく医療スタッフにかかる負荷は増大することになります。

シンポジウム1では、救急医療にまつわる意思決定として、在宅医療、救急搬送時（救急隊）、救急外来、救命センターICUというそれぞれの場面や立場で、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）をベースにしてどのような意思決定支援をしているのか、具体的な方法や取り組みについて提示し、討論を行うことを予定しました。

また、シンポジウム2は、医師部門・救急隊員部門合同セッションとして、「救急医は新型コロナパンデミックに際して何をなすべきか？」をテーマに、新型コロナウイルス感染症への対応を経験した人々の時間軸に沿った論点整理を行なうことを企画しました。

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大には歯止めがかからず、令和3年1月にも感染者数は一億人に達する勢いを見せていました。このレベルの災害においては、「資源を最も効果的に総動員させて機能させるかについての理念と戦略とを構築することが必要」(Center for Health Security)です。そのように災害の最たる事象とされるパンデミックの中で、救急医療はなにをなすべきか。関係する他領域・他職種の専門家（行政・保健所・医師会・感染症・救急医・消防・メディア）との議論を通じて明らかにしたいと考えました。

●主な出演予定者

シンポジウム1 看護部門・救急隊員部門合同セッション

【タイトル】

「患者の思いを紡ぐ～意思決定の時～」

【座長・司会(敬称略)】

恵泉クリニック 院長 太田祥一

東京医科歯科大学 看護部長 浅香えみ子

【演者(敬称略)】

メディカルハンプ訪問看護ステーション 所長 酒井美知子

東京消防庁救急管理課 鈴木翔平

東京消防庁救急管理課 高橋洋介

埼玉医科大学国際医療センター 救命救急センター 内藤茜

杏林大学医学部附属病院 高度救命救急センター 林晶子
聖マリアンナ医科大学病院 救命救急センター 山下将志

シンポジウム2 医師部門・救急隊員部門合同セッション

【タイトル】

災害の最たる事象としてのパンデミック

【司会】

杏林大学医学部救急医学 教授 山口芳裕

【演者(敬称略)】

東京都交通局長 内藤淳

台東保健所長 小竹桃子

東京都医師会 副会長 猪口正孝

都立駒込病院感染症科 部長 今村顕史

帝京大学医学部附属病院 病院長 坂本哲也

国立病院機構本部 小井土雄一

東京消防庁救急医務課長 瀧澤秀行

フジテレビ 小川美那

以上

第71回日本救急医学会関東地方会
第58回救急隊員学術研究会
収支報告書

自令和元年12月4日 至令和2年2月15日

(単位:円)

収入の部		主な内訳	
補助金収入	2,200,000	日本救急医学会関東地方会	2,000,000
		日本救急医学会	200,000
雑収入	8	預金利息	8
収入合計	2,200,008		

(単位:円)

支出の部		主な内訳	
会場関係費	0	京王プラザホテル キャンセル料	
映像機材関係費	521,460	講演動画撮影 キャンセル料	
印刷・制作物関係費	26,087	封筒等	
事務局関係費	801,156	ホームページ運営費	314,490
		事前WEB参加システム キャンセル料	300,000
		運営事務局委託管理費	150,000
		事務局維持費	36,666
事後処理費	2,640	各種(広告料等)返金作業 等	2,640
支出合計	1,351,343		

収支差額848,665円は、日本救急医学会関東地方会事務局に返金致します

第71回日本救急医学会関東地方会
第58回救急隊員学術研究会

会長 山口 芳裕



第72回日本救急医学会関東地方会学術集会
第59回救急隊員学術研究会

会 期：2022年2月25日(金) 予定

会 場：~~幕張メッセ(千葉県千葉市美浜区)~~ オンライン開催

会 長：中田 孝明(千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学)

運営事務局：未定

事 務 局：千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学

テ ー マ：未定

新幹事推薦

※郵送別添資料にてご確認下さい。

日本救急医学会関東地方会 2020年度決算報告書
(2020年1月1日～12月31日)

【収入の部】

科目	予算	決算	予算比	備考
会費収入	6,400,000	6,291,000	△ 109,000	幹事：10,000円・一般：5,000円
当年度・過年度収入		6,230,000		
前受会費収入		61,000		
雑収入	450,010	440,624	△ 9,386	
広告掲載料	0	0	0	
銀行預金利息	10	26	16	
地方会補助金	200,000	200,000	0	日本救急医学会
その他(1)	50,000	90,000	40,000	40巻3号, 41巻2号印刷代
その他(2)	200,000	0	△ 200,000	看護部会シンポジウム参加費
その他(3)	0	150,598	150,598	第70回学術集会余剰金
収入合計	6,850,010	6,731,624	△ 118,386	

【支出の部】

科目	予算	決算	予算比	備考
事業費	5,330,000	3,791,493	1,538,507	
刊行費(発送費を含む)	2,200,000	1,487,904	712,096	40巻3号, 41巻2号製作費
地方会補助費	2,200,000	2,200,000	0	杏林大学救急医学
会議費	100,000	0	100,000	
常任幹事会		0		年2回開催
編集委員会		0		年1回開催
会計監査		0		年1回開催
看護部会運営委員会		0		年2回開催
交通費	150,000	30,483	119,517	
常任幹事会		4,000		
編集委員会		0		
事務局		16,483		学術総会立ち会い
会計監査		3,000		
看護部会運営委員会		0		
その他		7,000		川崎事例検証会
SOS-KANTO	300,000	0	300,000	
会議費		0		
交通費		0		
看護部会シンポジウム	200,000	0	200,000	
会議費		0		講師諸経費
交通費		0		看護部会シンポジウム
印刷費	180,000	73,106	106,894	事務局コピー代
ホームページ運営費	0	0	0	UMIN利用
事務費	1,482,000	1,357,631	124,369	
通信費	250,000	228,686	21,314	
切手代		26,400		
宅配便代		6,238		
その他発送費		196,048		別納郵便
業務委託費	1,122,000	1,122,000	0	委託先：株へるす出版事業部
消耗品費	100,000	2,002	97,998	事務用品費、封筒作成費
振込手数料	10,000	4,943	5,057	
予備費	50,000	0	50,000	
支出合計	6,862,000	5,149,124	1,712,876	
収支	-11,990	1,582,500		
前年度(2019年)繰越金	8,570,549	8,570,549		
次年度(2021)繰越金	8,558,559	10,153,049		

銀行口座残高 ¥3,070,474
郵便口座残高 ¥7,082,575
小口現金残高 ¥0
合計 ¥10,153,049

監査報告書


日本救急医学会関東地方会の2020年度(2020年1月1日～2020年12月31日)における収支計算書、およびそれに付随する諸帳簿について必要な監査手続きを実施した結果、2020年度の経営状況を適正に表現しており、かつ会計手続きに不正のないことを認める。

以上

2021年1月8日

日本救急医学会関東地方会

監事 三宅 康史 

監事 松田 潔 

日本救急医学会関東地方会 2021年度予算(案)
(2021年1月1日～12月31日)

【収入の部】

科目	2020年度予算	2020年度決算	2021年度予算
会費収入	6,400,000	6,291,000	6,400,000
雑収入			
銀行預金利息	10	26	10
補助金	200,000	200,000	200,000
その他(1)	50,000	90,000	50,000
その他(2)	200,000	0	200,000
その他(3)	0	150,598	0
収入合計	6,850,010	6,731,624	6,850,010

【支出の部】

科目	2020年度予算	2020年度決算	2021年度予算
事業費			
刊行費(発送費を含む)	2,000,000	1,487,904	2,000,000
地方会補助費	2,200,000	2,200,000	2,200,000
会議費	100,000	0	100,000
交通費	150,000	30,483	150,000
印刷費	180,000	73,106	180,000
SOS-KANTO	300,000	0	300,000
看護部会シンポ	200,000	0	200,000
事務費			
通信費	250,000	228,686	300,000
業務委託費	1,122,000	1,122,000	1,122,000
消耗品費	100,000	2,002	100,000
振込手数料	10,000	4,943	10,000
予備費	50,000	0	50,000
支出合計	6,662,000	5,149,124	6,712,000
収支	188,010	1,582,500	138,010
前年度繰越金	8,570,549	8,570,549	10,153,049
次年度繰越金	8,758,559	10,153,049	10,291,059

名誉会員推戴について

- ・令和3年2月16日常任幹事会承認
- ・日本救急医学会関東地方会会則施行細則第22条2(3)に従い、承認を得られた候補者

(敬称略 五十音順)

氏名	役員歴
横田 裕行	常任幹事(平成19年～22年、22年～25年)、 平成28年会長

日本救急医学会関東地方会会則 (抜粋)

第3章 会員

(構成)

第5条 本会は、次の会員によって構成する。

- (2) 名誉会員：本会の発展に特に功労のあった者で、別に定める細則により推薦され、承認された者

日本救急医学会関東地方会会則施行細則 (抜粋)

第5章 名誉会員

第21条 名誉会員は、常任幹事が推薦し、幹事会の承認を要する。

第22条 名誉会員は、幹事会に出席し、意見を述べるができるが、議決に加わることは出来ない。

2 名誉会員の推戴要件は、以下の通りとする。

- (1) 役員経験者であること
- (2) 65歳以上であること
- (3) 本人に名誉会員となる意思があること

事務局の移転について

- ・事務局業務の委託先を株式会社へるす出版から、株式会社 smart119 へ移管する
- ・時期・委託費用等の詳細については今後検討をすすめる
(令和3年2月16日常任幹事会承認)

経緯等

2020年5月

現在の事務局業務を委託している(株)へるす出版より、人員確保の問題から事務局業務の一部削減、また1~2年後を目処とした業務の返上について打診があった

2020年9月10日(金)：令和2(2020)年度第2回常任幹事会(Web会議)

常任幹事会で共有、各常任幹事にてそれぞれ他の学会事務業務引受業者の候補選出をすすめることとなった

2021年2月16日(火)：令和3(2021)年度第1回常任幹事会(Web会議)

- ・候補となったいくつかの学会事務業務引受業者に、本学会の規模や業務内容をもとに見積を依頼したところ、およそ250~300万円/年の試算となった
- ・一方、中田常任幹事より、事務局業務のみに限れば、自身が代表を務める株式会社 smart119 (<https://smart119.biz/>) で、それらの他社見積よりは幾分安価に引き受けられることが出来るとの申し出があった。

常任幹事内で議論がもたれ、今後、事務局業務の委託先を株式会社へるす出版から、株式会社 smart119 へ移管する方針を決定した(学会誌の発行に関する業務については、株式会社 smart119 では対応が難しいとして、引き続き株式会社へるす出版が担当する)。なお、業務委託費用・移管時期等については調整をすすめていくとされた。

以上

SMAQ 活動の地方会としての支援について

令和3年3月5日

常任幹事長 武田 宗和

2019年4月 日本救急医学会、学生・研修医部会運用特別委員会の支援を経て日本救急医学会 学生・研修医部会（通称:SMAQ, Student and resident Medical Alliance for QQ)が設立された。

SMAQ は、『救急医療に興味を持つ学生・研修医の能力向上や社会貢献をする』ことを目的として、各地方ブロックごとに医学部生・研修医が主体となり活動しており、各地方会に所属する特別委員会委員は、SMAQ と連携を図り、諸活動を支援している。

資料参照

SMAQ 関東ブロックでは、昨年、委員会メンバーのサポートを経て、オンラインセミナーを開催したが、当地方会会員の間での SMAQ の認知度は低いと思われる。

委員会メンバーである小職は、常任幹事長の責務の一つとして当地方会会員に SMAQ を広く知っていただくべく、その関わりを構築する必要性を鑑み、議題を提案する次第です。

支援内容(案)

1. HP 上で SMAQ の活動内容の紹介や催事案内
2. イベント開催における活動援助
3. 地方会での SMAQ 関連のセッション導入、等

web 第8回 医学生のための 流行りのwebinar!

救急セミナー in 近畿

令和2年5月23日(土) 13時~15時
 対象: 全国の医学生 定員: 80名 参加費: 無料
 方法: Zoom (事前申込制: 参加者にURLを送付)



講演: 吉村 旬平先生 大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター
「救急医は見た! ダイヤモンドプリンセス号の真実」
 質疑応答の時間あり! 実際の現場のことを聞いてみよう!

特別企画: **救急医が語る救急医の魅力! ~三つ巴の戦い~**
 救急科専門医(総論) 柚木 知之先生 京都大学大学院医学研究科 初期診療・救急医学
 救急医ってどんな仕事?
 ワークライフバランスは?
 救急医のやりがいって?
 集中治療 瀬尾 龍太郎先生 神戸市立医療センター中央市民病院 救急部 医長
 ER 武部 弘太郎先生 京都府立医科大学 救急医療学
 どうすれば救急医専門医になれる?
 ACS acute care surgery 中尾 彰太先生 大阪府泉州救命救急センター 所長
 女性の救急医って?
 質疑応答の時間あり! 救急医の本音を聞いてみよう!

申込: 下記フォーム/QRコードよりお申込み下さい
<https://forms.gle/Jtg8XV6e7ieVgTLm2>

主催: 近畿救急医学研究会
 協力: 日本救急医学会 学生・研修医部会運用特別委員会 SMAQ近畿ブロック
 審議部: 大阪急性期・総合医療センター 救急診療科

日本救急医学会
 Japanese Association for Acute Medicine

医学生・初期研修医向け

COVID-19救急医療の最前線について

Presented by SMAQ近畿ブロック



大阪医科大学 准教授 山川 一馬 先生
 大阪府立中河内救命救急センター 所長 山村 仁 先生
 りんく総合医療センター 大阪府泉州救命救急センター 所長 中尾 彰太 先生
 京都大学大学院医学研究科 講師 柚木 知之 先生
 公立豊岡病院 但馬救命救急センター 医長 後藤 保 先生
 京都府立医科大学 助教 武部 弘太郎 先生

日時: 令和2年 5月7日(木) 11:00~13:00
 媒体: Zoom
 内容: 最前線で働く救急医によるCOVID-19医療の現状
 URL: <https://forms.gle/bCZHQpdkEcqxqzF99>

SMAQ Student and resident Medical Alliance for QQ
 日本救急医学会 学生・研修医部会

学生・研修医向けオンラインセミナー

救急医療の魅力って、なんだろう?

参加費 **無料**

On zoom

Presented by SMAQ中部ブロック

救急医療に少しでも興味のある学生さん! 春から実際に救急外来で勤務する6年生の皆さん! そして専門研修に救急を考えている初期研修医の皆さん! 皆さんのキャリア選択・形成の参考になるセミナー企画です!
 今回、様々なバックグラウンドを持つ4人のドクターをプレゼンターにお招きし、日頃従事する救急当直でどんなことに悩みながら診療しているか? 救急科を専攻に選んだのは何故か? 救急医としてのキャリアプランは? 救急医療の現場で自分を成長させてくれた経験・症例は? といった彼らの考える「救急医療の魅力」を語ってまいります。ふるってご参加下さい!

- 福井県立病院 救急科専攻医 河野 久美子 先生
- 岐阜大学医学部附属病院 初期臨床研修医 福田 洋丞 先生
- 聖隷浜松病院 救急科 医長 土手 尚 先生
- 小牧市民病院 救急科専攻医 安田 祐真 先生

学生向けオンラインセミナー

救急医が見た! COVID-19診療の現場

On zoom

Presented by SMAQ中部ブロック



福井県立病院救命救急センター 医長 狩野 謙一 先生
 トヨタ記念病院救急科(ERトヨタ) 医長 西川 佳友 先生
 名古屋大学医学部附属病院 救急科長 後藤 緑 先生

3/7 (日) 19:00~21:00

媒体: Zoom
 対象: 全国の医学生・初期研修医
 定員: 100名 参加費: 無料
 内容: 進路、救急科の魅力について
 URL: <https://bit.ly/3rHHuOd>

QRコードまたはURLから申込フォームを入力してください。
 ご不明な点がございましたら、chubu.smaq@gmail.comまでお問合せ下さい。

7/12 (日) 14:00~15:30

媒体: Zoom 対象: 全国の医療系学生
 定員: 100名 参加費: 無料
 内容: 救急医から見たCOVID-19医療について
 URL: <https://bit.ly/2NyaJko>
 QRコードまたはURLから申込フォームを入力してください。
 ご不明な点がございましたら、chubu.smaq@gmail.comまでお問合せ下さい。

SMAQ Student and resident Medical Alliance for QQ
 日本救急医学会 学生・研修医部会



日本救急医学会
Japanese Association
for Acute Medicine

SMAQ
九州・沖縄ブロック
主催

2020年度 第2回オンライン企画
現役救急医による
プレホスピタル
最前線





久留米大学病院
高度救命救急センター
山下典雄先生



琉球大学病院 救急部
玉城佑一郎先生

10/3 (土) 13:00~15:00

【対象】全国の医療系学生 【使用媒体】Zoom
 【応募URL】 <https://forms.gle/aztD9BynURF7BEQ98>
 【参加費】無料 【応募〆切】10月2日(金)17時まで
 【問い合わせ先】 kyushu.okinawa.smaq@gmail.com



SMAQ: Student and resident Medical Alliance for QQ
日本救急医学会 学生・研修医部会



一般社団法人
日本救急医学会
Japanese Association for Acute Medicine

5月5日に君を待っている



特別講師

笠岡 俊志 先生
熊本大学病院
災害医療教育研究センター
教授



大内 元 先生
琉球大学病院救急部
特命講師



R2年度救急Web新歓企画

-SMAQ九州・沖縄ブロック-

日時: 令和2年 5月5日(火)
14:00~16:00
ツール: Zoom
内容: 救急医のキャリア

SMAQ : Student and resident Medical Alliance for QQ
日本救急医学会 学生・研修医部会

 日本救急医学会
Japanese Association
for Acute Medicine

SMAQ関東ブロック主催
第1回オンライン企画
救急領域で
Physician Scientistを目指そう


慶應義塾大学医学部救急医学教室
本間 康一郎 先生

下記QRコードよりお申込みください

 日にち:令和2年7月19日(日)
時間:15:00~16:00
対象:全国の医療系学生
定員:50名
参加費:無料
方法:Zoom

SMAQ: Student and resident Medical Alliance for QQ
日本救急医学会 学生・研修医部会

 日本救急医学会
Japanese Association
for Acute Medicine


SMAQ関東ブロック主催
第2回オンライン企画
救急医の1日を通して救急医のキャリアをみてみよう!
~救急医とはどういう仕事なのか~


東京ベイ・浦安市川医療センター
救急・集中治療科 部長
船越 拓 先生


下記QRコードよりお申込みください

 日にち:令和2年9月1日(火)
時間:18:00~19:00
対象:全国の医療系学生
定員:30名
参加費:無料
方法:Zoom


SMAQ: Student and resident Medical Alliance for QQ
日本救急医学会 学生・研修医部会

 日本救急医学会
Japanese Association
for Acute Medicine

SMAQ関東ブロック主催
第3回オンライン企画
女性救急医としてのキャリアプラン


大同病院 救急科
矢島 つかさ 先生

下記QRコードよりお申込みください

 日にち:令和2年11月6日(金)
時間:19:00~20:00
対象:全国の医療系学生
定員:50名
参加費:無料
方法:Zoom

SMAQ: Student and resident Medical Alliance for QQ
日本救急医学会 学生・研修医部会